

目次

『人文 × 社会』 創刊に寄せて	i
〈企画〉	
座談会企画 大学と社会を考える	1
望月滢、笠松和也、有賀雄大、上西晴也 谷川みらい、筒井一穂、福田真人、田澤真衣	
エッセイ集企画 学外から見る人文学のあり方・可能性	39
中村芳雅、福岡洸太郎	
〈論文〉	
中国帰国者一世・二世・三世の中国語に対する意識調査 ——今後の日本における、多文化共生社会の実現に向けて	57
井上晴美	
大学院生におけるメンタルヘルス問題について	107
横路佳幸	
ライフストーリー研究の方法論 ——認識論 (epistemology) としての人文 × 社会科学 の交差点	125
中尾元	

神なき時代の救済論 ——宗教・思想史における反出生主義の定位	139
	村田奈生
子どもの貧困研究における「子ども」との向き合い方	193
	長澤敦士
「言い表しえぬもの」としての愛の理想 ——ミシェル・ウエルベックの小説における理想の 不描写をめぐる試論	211
	西村真悟
ベネター型反出生主義へのブーニンによる反論の検討	229
	榊原清玄
文とは何か——時枝国語学から現代生成言語学へ	251
	中村一創
大学入学共通テスト英語リーディング問題の多角的検討	269
	新美德康
〈研究ノート〉	
条坊制と庭園——京都を事例とした都市論的考察	279
	野上亮
田村（佐藤）俊子の北京時代における中国語文章（1940年） について（上）	287
	朱彩雲

COVID-19 と宗教活動の自由をめぐる最新判例にみる 公衆衛生行政の限界——米国法の分析と日本法との比較	303
島田裕平、宮崎理紗、竹下雄大、金田耕一、池田有梨奈	
近代日本哲学史の描き方——船山信一の仕事を振り返る	411
笠松和也	
近世ヨーロッパにおける学問の公共性 ——その一事例としてのメルセンヌ・アカデミーと 彼の思想	431
筒井一穂	
新約聖書「ヨハネの第三の手紙」にみられる裏返し構造	451
大喜多紀明	
〈エッセイ〉	
頼山陽の風景観と山紫水明処について	461
島村幸忠	
日本の年金制度を取り巻く雇用問題	467
根本萌希	
〈翻訳〉	
スターティウス『テーバイス』第1巻	485
長島真以於 訳	

〈史料紹介〉

- 明治時代における新聞での演奏批評記事目録
——1890-1916年までの7紙における演奏批評から 517
西澤忠志

〈一人ビブリオバトル〉

- 短い20世紀に捧げて
——中西輝政編著『アジアをめぐる大国興亡史 1902～1972』
VS 黒川伊織『戦争・革命の東アジアと日本の
コミュニスト 1920～1970年』 567
鈴木健吾

〈書評〉

- 人文学は医療・医学に貢献できるのか
——書評: Jacob Stegenga, *Care & Cure: An Introduction
to Philosophy of Medicine*, The University of Chicago
Press, 2018. 575
奈須野文槻

- 「わたし」のための祈り
——宇佐見りん『かか』『推し、燃ゆ』について* 587
森岡桃子

活動報告 597

執筆者紹介 599

(*は右綴じ原稿)